

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
教育方法学（教育工学を含む。） Educational Method (including Educational Technology)		児童教育学科 幼児教育学専攻	1年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
講義	2	必修	中津愛子 梅田美穂 鄭 曉琳	複数

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
<p>○コアカリキュラム：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>（1）教育の方法論 一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」</p> <p>（2）教育の技術 一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 到達目標：1) 話し・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>（3）情報機器及び教材の活用 一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2) 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。</p>	

【全体目標及び概要】	
<p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。子どもの発達や興味・関心に応じて保育の内容を考え、附属幼稚園で保育を実践することを通して、教育者に必要とされる教材の工夫、保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。</p>	
【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	(1)-1)
2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方（主体的・対話的で深い学びなど）を理解している。	(1)-2)
3) 学級、幼児、教員、保育室、教材など保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	(1)-3)
4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	(1)-4)
(2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、習得する。 1) 子どもへの働きかけや援助など、保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	(2)-1)
2) 子どもの発達に応じて保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	(2)-2)
(3) 情報機器を活用した効果的な情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 1) 子どもたちの興味・関心を高めるために ICT を効果的に使用した教材を作成し、その教材を用いて保育を実践する能力を身に付ける。	(3)-1)、2)

回数	教育方法学 授業内容 【中津・梅田・鄭】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	子どもの資質、能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて学ぶ。(担当：中津)	(1)－1) (1)－2)	(1)－1) (1)－2)
2	子どもの遊びを充実させるための教師の役割について理解する。(担当：中津)	(1)－3)	(1)－3)
3	様々な保育形態と保育時間について学ぶ。(担当：梅田)	(1)－3)	(1)－3)
4	子どもの遊びが充実するための保育環境の工夫について学ぶ。(担当：梅田)	(1)－1) (1)－3)	(1)－1) (1)－3)
5	子どもの発達に応じた教材の選び方、教材作成の方法を理解する。(担当：鄭)	(2)－2)	(2)－2)
6	保育実践を展開していくための保育教材を検討する。(担当：中津)	(2)－2)	(2)－2)
7	保育実践の展開に必要な保育者の援助について学ぶ。(担当：中津)	(2)－1)	(2)－1)
8	ペープサートやパネルシアター等の保育教材の使い方、演じ方について学ぶ。(担当：鄭)	(2)－1) (2)－2)	(2)－1) (2)－2)
9	子どもの実態に応じて保育のねらいと内容を考え、指導計画を立案する。(担当：梅田)	(2)－2)	(2)－2)
10	附属幼稚園での保育実践の準備及び模擬保育の実践を行なう。(担当：梅田)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)
11	附属幼稚園で保育実践を行なう。(担当：鄭)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)
12	保育実践の反省と評価を行い、改善点を反映させた指導計画を立案する。(担当：中津)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)	(1)－3) (2)－1) (2)－2)
13	ICTを活用した保育教材の作成を行なう。(担当：鄭)	(3)－1)	(3)－1)、2)
14	ICTを活用して作成した保育教材を用いて保育実践を行なう。(担当：鄭)	(1)－3) (2)－1) (2)－2) (3)－1)	(1)－3) (2)－1) (2)－2) (3)－1)、2)
15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。(担当：中津・梅田・鄭)	(1)－4)	(1)－4)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度)30%、指導案・教材作成(思考力・判断力・表現力)30%、定期試験(知識・理解)40%		
テキストおよび参考文献	テキスト:幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 『教育方法学』山口短期大学 参考文献:文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社		
メッセージなど	グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育や附属幼稚園での保育実践を行うとともに、ICTの活用を勧め、学生の主体的な学びを重視します。		

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。		10%
(1)-3 学級、幼児、教員、保育室、教材など保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。		10%
(1)-4 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。		10%
(2)-1 子どもへの働きかけや援助など、保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている	大きな間違いがなく、基本を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身に付いていない。	模擬保育の実践 (技能・表現力・判断力)	15%
(2)-2 子どもの発達に応じて保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案 (思考力・表現力)	15%
(3)-1 子どもたちの興味・関心を高めるために ICT を効果的に使用した教材を作成し、その教材を用いて保育を実践する能力を身に付ける。	子どもたちの興味・関心を高めるための工夫をした ICT 教材を作成し、それを用いた保育もほぼ完璧に実践できる。	ほぼ子どもたちの興味・関心にあった ICT 教材が作成でき、基本を踏まえた実践ができる。	工夫する力は努力を要すが、最低限の基本を踏まえた実践ができる。	ICT 教材を作成せず、それを用いた実践ができていない。	教材作成 (関心・意欲・態度・技能・表現力)	15%
					模擬保育の実践 (技能・表現力・判断力)	15%